

園芸

(お花や野菜づくり)



取材協力をしてくださった参加者をご紹介します。

◆平光さん(72) (上の写真 右側)

鉢の後方に背の高いケイトウを配置して、その足元に背の低い観葉植物を植えています。

◆奥村さん(78) (上の写真 左側)

鉢の中央に背の高いケイトウを配置して、周りに背の低い観葉植物を植えています。

国際園芸アカデミーの一般県民向け講座に参加された花や野菜作りが大好きな二人の方に、「園芸」の楽しさについてお話を伺いました。

(国際園芸アカデミーでは、『花壇苗づくり』や『花束づくり』や『ハーバリウムづくり』、『庭木の剪定』といった体験講座や花にまつわる座学、園芸福祉に関する講座などの『一般県民向けの生涯学習講座』と、園芸店や造園緑化業や園芸サポーターを対象とした『実務者向け講座(一部は一般県民も参加可)』が開講中。)

お二人はいくつもある講座の中で、『【2回シリーズ】花壇苗づくりと活用講座～めざせ!苗づくり名人～』の講座に参加した理由は何ですか。

(平光さん) 実は私達、国際園芸アカデミーの講座には昨年に続いて2回目の参加なんです。

(奥村さん) 昨年度も今回と同じ、『花壇苗づくり講座』に参加しました。

(平光さん) もともと土いじりが大好きで、ホームセンターで花苗を購入してプランターに寄せ植えしていたのですが、次のステップとして自分で種を蒔くところからやってみたくて。

それで、播種(※1)を学べるこの講座を選んだんです。

[※1 播種:植物の種を蒔くこと]

(奥村さん) そしたら、昨年参加した時にとても楽しくって。

それに、その時に持ち帰って育てた株を寄せ植えしてお友達にあげたら大喜びされたことが嬉しくてね。

それで、また今年も2人で参加することにしたんです。

お二人は昨年度の講座でお知り合いになったのですか。

それとも、もともとお花友達ですか？

(平光さん) ふふふ、もともとお友達。

お花友達というより、畑で野菜を育てる友達なのよね。

(奥村さん) ふふふ。そうなの。ファーム仲間なんです。

花だけでなく野菜作りもされているんですね。

『園芸』を通じてお友達の輪が広がるっていいですね。

(平光さん) そうですね、お花でもお野菜でもやっている人と交流ができるのがいいですね。

「はるかひまわり」ってご存じですか。

阪神淡路大震災の時に被災して亡くなったはるかちゃんのご自宅跡地に咲いたひまわりを、「はるかひまわり」と名付けて、採取した種を全国各地につないで、「人の命の大切さ」や「人との関わり大切さ」を伝えていくプロジェクトがあるんです。

私もそれに参加していて、2,3年前からいただいた種を蒔いてひまわりを咲かせて、

その種をまた翌年大切に育てるということをしています。

家の近くに小学校があって子供達の往来が多いのですが、初めはそのひまわりが自分達の背より低かったのがだんだんと成長して、そのうち見上げるほどになったのを子供達が「大きくなった!!!」と驚く姿が見られたりします。

また小さな子を連れてお父さんが通りかかって、背が高くなったひまわりの花を間近で見せてあげるために「ほら〜っ!!」と高く抱き上げてあげたり。

中にはひまわりをバックにして写真を撮ったりする人達もいらっしゃるんですよ。

それと、家の道沿いにはハーブを植えているのですが、ハーブ好きな人から声をかけられたりもします。

花を育てるのは自分だけの楽しみだけにとどまらなくて、人にも喜んでもらえるのが嬉しいですね。

(奥村さん) そうそう、人と共有できるというのがいいですね。

(平光さん) 奥村さんのファームの写真をを見せてあげたら？

奥村さんのファームには、テレビでやっているポツンと一軒家みたいな感じの小屋があって、そこでちょっとした煮炊きもできるようになっていて、ピザ窯まであるんです。

そして畑には野菜や花が育っていて、すごく素敵で!!

お友達皆と奥村さんのところに集まるんですよ。

(奥村さん) (携帯で写真を見せてくださりながら、)これは今年の講座でもらったハボタンが育ったもの、これはラベンダー、これがファームの看板。

そんなに大きくもないんですけど、『奥村ファーム』って看板をたてているんです。

ここにお友達を呼んで一緒におしゃべりしたり、育てたハーブでハーブティを飲んだり、ケーキを作ったりして楽しんでいます。

(平光さん) 奥村ファームの小屋の中にはドライフラワーがいっぱい下がっているんですよ。

(奥村さん) 自分でせっかく育てた花だから、ドライフラワーにしてお友達とリース教室をしたりもしています。

お二人にとって『園芸』とはどのようなものですか。

(顔を見合わせ同時に) 生活そのものよね!!

(平光さん) 朝 5 時半に起きたらすぐ苗がどれくらいに育ったか見て回ったり、「今日は何をしようかな」って考えたりね。

(奥村さん) そうだね。まず天気予報をすごく気にしたりしますよね。

夜は「あれとこれとそれをしよう」ってな感じで翌日のお花に関する予定を立てたり。

(平光さん) 本当に一日がお花や畑が中心。

(奥村さん) そんな楽しみの中で日々動いています。

これから頑張りたいことはありますか。

(奥村さん) 私達、畑をやっているでしょ。

ここアカデミーで播種からの苗づくりを習ったので、これからは花の苗だけじゃなくて、野菜の苗も同じように種蒔きでやれたらと思います。

(平光さん) 私は5年位前に園芸福祉サポーター養成講座を受けて以来、園芸福祉サポーターをしているのですが、長年やっても自分の園芸の未熟さを感じる事があります。この講座で「自分はこういうところができていなかったんだな。」と学ぶことも多かったので、糧にしてスキルアップをしていきたいです。

本日の講座は楽しいだけでなく、ためのなったんですね。

具体的にどのようなことを習ったのですか。

(平光さん) この講座は2回シリーズなのですが、7月にあった1回目の講座ではセルトレイ(※2)に播種をしました。その後、2回目(9月)の講座までアカデミーの先生がセルトレイを預かって水やりや温度管理をしてくださいました。

そして2回目の今日は、発芽した小さな苗をセルトレイからポット上げ(※3)をしたり、マイクロ寄せ植え(※4)をしたりしました。

ポット上げでは花苗の種類によって苗を植える方法が違うことやポット上げ後の水やりなどの管理の仕方を教えていただきました。

[※2 セルトレイ:育苗するための容器。1つのセルに種を1つずつ蒔く]

[※3 ポット上げ:セルトレイで育苗した苗が根が十分回った苗をポットに植え替える]

[※4 マイクロ寄せ植え:意図的に3cm~5cmほどの草丈で開花させた花や観葉植物を用いて、手のひらサイズで作成した寄せ植え。国際園芸アカデミーが開発。]

(奥村さん) 1回目の講座と同じ時期に、家でも播種からの苗づくりを試してみたのですが、園芸アカデミーほどの管理はできないため発芽させるのが難しくて…やはり習うというのは我流とは違いますね。

(平光さん) そうそうそう、習うのと我流とでは本当に違って勉強になります。

それなのに私、今回は昨年よりも少しいい加減に播種をしてしまったせいで、昨年度は蒔いた種のほとんどが芽を出すくらい発芽率が高かったのに、今年はあまり芽が出てこなくて…。

先生は「猛暑だったから発芽率が悪くても仕方ない。」とおっしゃっていましたが、2回目の参加なんだからもっと丁寧に播種をしていたら、猛暑だということを差し引いても発芽率を上げることができたんじゃないかなあと悔しくて…。反省です。

そういえば、昨年、アカデミーの培養土でポット上げた株と、その時に余った苗を持ち帰ってホームセンターで売っている培養土でポット上げた株とを育てたのですが、その後の苗の育ちが全然違って、すごくびっくりしました。

(奥村さん) 私も同じ。

アカデミーの培養土はホームセンターで売っているメーカー培養土よりもすごく良いのも魅力ですね。この培養土は加茂農林高校が作ったものだそうですよ。

そういえば、お二人は『マイクロ寄せ植え』をしていた時に、それぞれ違った手法で寄せ植をされていて、先生からその技術と手際の良さを褒められていましたよね。

寄せ植のセンスが良くなるにはどうしたらいいのでしょうか。何か秘訣はありますか。

(平光さん) 秘訣ねえ…。好きだから長年やって試している中で身につけたような…。

仲間を見つけて話をしたり、あとはこういう勉強会に来たりするのも良いんじゃないかな。

(奥村さん) そうね。お友達に畑なり花壇なりを見せてもらったりしたら、「こうしよう。」と学ぶこともあるものね。

では、「園芸を始めてみたいけど、枯らしちゃったらかわいそう。」と躊躇している人や、「園芸って何から始めたらいいのかな。」と取り掛かり方が分からない人へ向けて、園芸の初めの一步をどのように初めて楽しめばよいのかを教えていただけますか。

(平光さん) 私達みたいに種から育てるのも楽しいけれど、初めての方は、ホームセンターで咲いている苗を買ってきて寄せ植をすることからでいいんじゃないかな。

それと球根から育てるのも楽しいし。

(奥村さん) そうね、球根から順番に芽が出てくるのって楽しい。

(平光さん) 芽が出ると「芽が出てきた、芽が出てきた!!」ってなるでしょう。育ってくると「おお!!大きくなってきた!!」ってなって、次は「花が咲いた!咲いた!」って嬉しいけれど、枯れてしまうって悩みには…。

枯れたらきれいにして、また次の季節の花を植えればいい。

(奥村さん) そうそう。枯れたら枯れたで種を取ればいいし。

植物というのは生き物なので最終的に枯れてしまうという事を知ることも一つと思って。

(平光さん) 以前は家の玄関に生花を飾って楽しんでいましたが、枯れたものをすぐに片付けなかった時があって主人が「枯れたのを放置されているのを見るのは嫌だ。」と。

そして「整然と並んでいるものではなく、家の周りに植えた花のように自然に咲いている花を見る方が好きだ。」と言うんで、『生花を飾る』ということはしなくなりました。

それからは『育てる』ということだけをしています。

花の楽しみ方も一つじゃない、ということですね。

最後に、まだ何か楽しめる場所を見つけられていない人へ、何かメッセージをお願いします。

(平光さん) 私が所属している園芸福祉サポーターの仲間に、山歩きやお散歩は好きなんですけど、実はお花がすっごくおおく好きというほどではない方がいらっしゃるんですね。それでも「仲間と一緒におしゃべりをしたり、色々な活動をしたりすることが楽しい。」とおっしゃっています。

だから、ものすごく好きで始めるというわけではなく、ふとしたことで、誰かと話をして、「ちょっと興味があるかも。」と思う事を始めてみて、そこでお友達ができて楽しくなるというのもいいんじゃないかと思います。

(奥村さん) そうね、人と話すのは楽しいから。